

- 近年の豪雨災害の頻発化に伴い、未舗装林道の路面洗堀が繰り返されることで通行に支障を来し、森林整備の妨げとなっている。
- このため、鉄鋼スラグを用いて路面を整備することで、適正な森林整備が可能となる環境を整えるとともに災害の未然防止を図った。

□ 事業内容

林道路面整備事業

【事業費】15,650千円（うち譲与税9,650千円、その他6,000千円）

【実績】整備路線6路線、整備延長L=1,129.2m、W=3.5～5.0m、
鉄鋼スラグ路盤工A=4,635.7㎡、木製横断工N=5箇所
コンクリート路面工A=279.6㎡

□ 取組の背景

- ・市が管理する林道総延長は約483.7kmと県内で一番長いが、林道の舗装率は54.6%と県内平均よりも低い状況である。
- ・交付金事業や県単事業を活用し、年次的に林道の舗装整備を実施しているが、対象路線が多いため舗装率が上がらない。
- ・未舗装林道の洗堀は適正な森林整備の妨げとなるだけでなく、災害を誘因する可能性もあることから、本事業に取り組むこととした。



（着手前）



（完成）



（完成）

□ 工夫・留意した点

- ・鉄鋼スラグ路盤工を採用したことにより、従来のアスファルト舗装工に比べて、5～6割程度の事業費で整備することができた。
- ・急勾配区間や延長が長い区間には、木製横断工やコンクリート路面工による中間水切りを設置して路面水が集中することを避け、下流への影響をできるだけ軽減した。

□ 取組の効果

- ・豪雨等により林道路面の悪化（洗堀）が見られる箇所に鉄鋼スラグ路盤工や木製横断工の設置を実施することで、安全な通行を確保し、円滑な森林整備や災害の未然防止につなげることができた。

□ 基礎データ

①令和5年度譲与額：150,100千円		②私有林人工林面積（※1）：20,395ha	
③林野率（※1）：84.7%	④人口（※2）：118,394人	⑤林業就業者数（※2）：378人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より